

今週のテーマ

1. 一週間のまとめ

(1) 与党陣営の動き

～米国 マドゥロ大統領・夫人を拘束～

..... 1p

(2) 野党陣営の動き

～MCM 氏 ゴンサレス氏が大統領～

..... 4p

(3) 外国の動き

～米軍の攻撃に対する各国の反応～

..... 5p

(4) 今週、来週の主なイベント

..... 7p

(5) 債券の元利不払い状況

..... 8p

2. ベネズエラで起こりうる

シナリオと可能性分析

..... 9p

3. マドゥロ大統領不在の与党の重要課題

..... 11p

債券指標の動き

4. ベネズエラ債券・経済指標の増減

..... 13p

カントリーリスク分析



(写真) Al Navio “米政府 マドゥロ大統領を拘束し米国へ移送”

一週間のまとめ（2025年12月21日～1月3日）

(1) 与党陣営の動き ～米国 マドゥロ大統領・夫人を拘束～

2026年1月はベネズエラにとってはもちろん世界にとっても重要な月になるだろう。

1月3日 トランプ大統領は自身の SNS にて、ベネズエラにて軍事作戦を実行したと投稿。同作戦の結果、マドゥロ大統領とシリア・フローレス大統領夫人を拘束したと発表した。

実際にこの投稿の前に現地ではベネズエラの首都カラカス、ミランダ州、アラグア州などで爆撃が起きていると報じられていた。

POINT

米国特殊部隊 ベネズ

エラで軍事作戦決行。

マドゥロ大統領、大統

領夫人を拘束し、米国

へ移送。

何らかの異常事態が起きていることは確認できたが、マドゥロ大統領が本当に拘束されたのかについては客観的な情報が求められていた。

そして、デルシー・ロドリゲス副大統領が「マドゥロ大統領の消息がつかめていないこと」「トランプ大統領に対してマドゥロ大統領の生存を証明するよう求めたこと」を明らかにしたことで、この投稿が事実であることが確認された。

ベネズエラ時間で15時30分頃、ロドリゲス副大統領は、米国軍によるマドゥロ大統領の拘束を非難し、解放を要求。国連憲章に違反すると訴えた。

また、国家防衛評議会のメンバー（ホルヘ・ロドリゲス国会議長、タレク・ウィリアム・サアブ検事総長、カリシア・ロドリゲス最高裁判長、ディオスダード・カベジョ内務司法相、パドリーノ・ロペス国防相、エルナンデス・ラレス国軍戦略室総司令官）らを前に「この国の大統領はニコラス・マドゥロ氏だけ」との声明を発表した。

ただし、この発表後に最高裁判所判事がロドリゲス副大統領に対して暫定大統領に就任するよう要請する声明文および音声動画が拡散された。

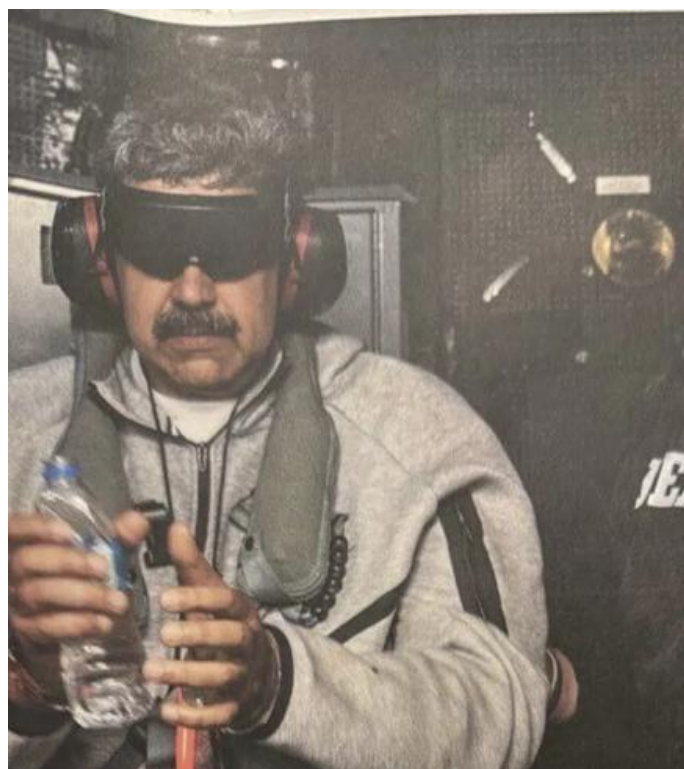


Sergio Novelli

@SergioNovelliE · Seguir



Primeras imágenes de Cilia Flores, tras ser detenida junto a Nicolás Maduro por la DEA



（写真）拘束されたマドゥロ大統領およびフローレス大統領夫人の画像

POINT

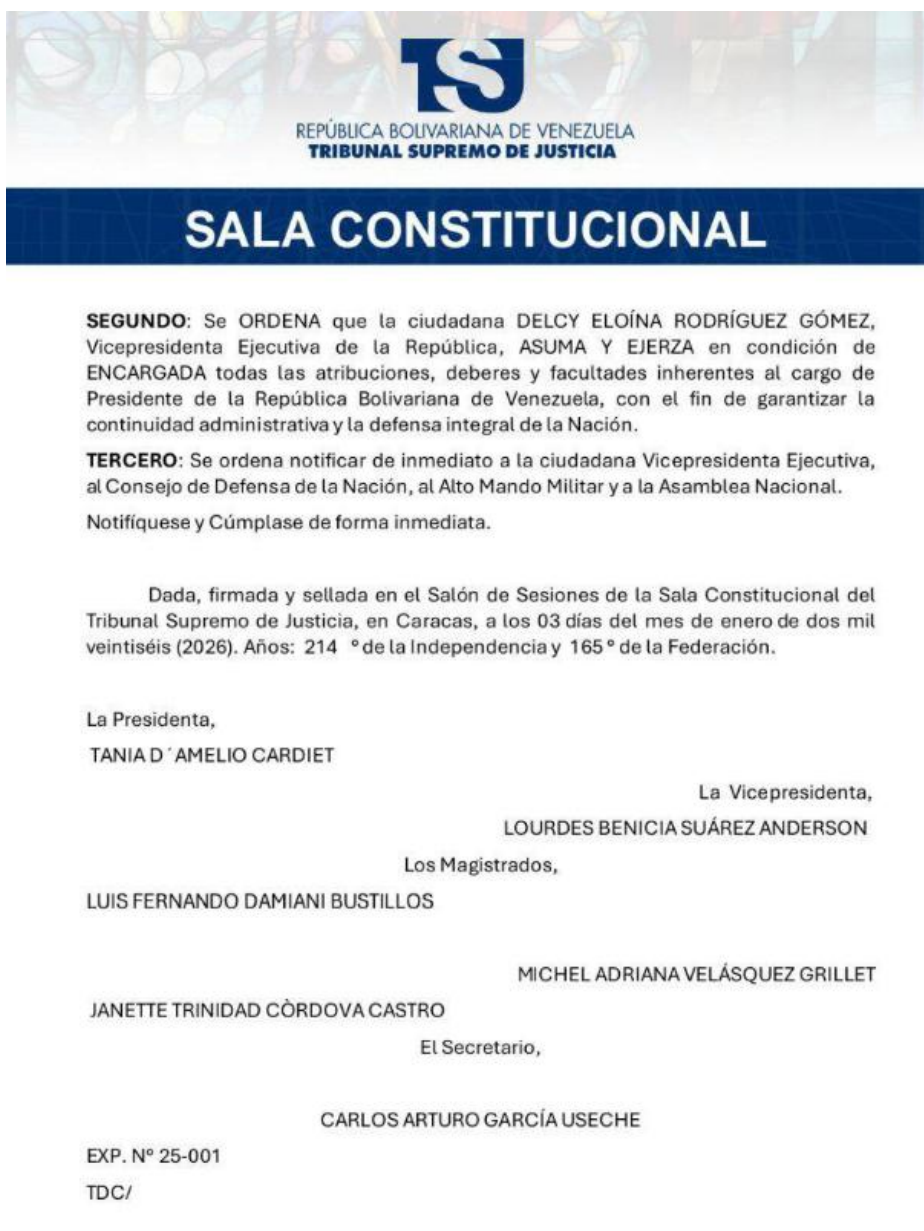
この声明文には最高裁判所の憲法法廷（憲法の解釈を司る法廷）の代表判事の名前が書かれており、具体的には憲法法廷の Tania D Amelio 代表判事、Loudres Anderson 副代表判事、その他3人の判事らの名前が書かれている。

この声明文は、先のロドリゲス副大統領の発言（この国の大統領はニコラス・マドゥロ氏だけ）と相反するもので、これが方針転換の結果なのか、最高裁憲法法廷グループの離反なのかは定かではない。なお、ロドリゲス副大統領がこの声明に、何らかのアクションを執ったという報道は確認出来ていない。

ロドリゲス副大統領、
「ベネズエラ大統領は
マドゥロ大統領のみ」
と発言。

一方、最高裁の憲法法
廷はロドリゲス副大統
領に対して、暫定大統
領に就任するよう指
示。

最高裁の憲法法廷グル
ープが離反した可能性
あり。



（写真）最高裁憲法法廷の声明文

POINT

（2）野党陣営の動き ～MCM 氏 ゴンサレス氏が大統領～

米国の軍事作戦を受けて、野党のリーダーであるマリア・コリナ・マチャド氏（以下、MCM）は、「ついにベネズエラに国民自決、国家自決の時が来た」と喜びのメッセージを投稿。政治犯の解放、国外に移住したベネズエラ移民の帰国に向けて動き出すとの見解を示した。

また、24年7月の大統領選で当選したエドムンド・ゴンサレス氏がベネズエラ大統領に即座に就任しなければならないと訴え、軍部に恭順を求めた。

MCM 氏 マドゥロ大

統領の拘束に喜びのメ
ッセージを投稿。

エドムンド・ゴンサレ

ス氏の大統領就任を要

請。軍部に恭順を求め

る。

Venezolanos, Llegó la HORA DE LA LIBERTAD!

Nicolás Maduro desde hoy enfrenta la justicia internacional por los crímenes atroces cometidos contra los venezolanos y contra ciudadanos de muchas otras naciones. Ante su negativa a aceptar una salida negociada, el gobierno de los Estados Unidos ha cumplido su promesa de hacer valer la ley.

Llegó la hora de que la Soberanía Popular y la Soberanía Nacional rijan en nuestro país. Vamos a poner orden, liberar a los presos políticos, construir un país excepcional y traer a nuestros hijos de vuelta a casa.

Hemos luchado por años, lo hemos entregado todo, y ha valido la pena. Lo que tenía que pasar está pasando.

Esta es la hora de los ciudadanos. Los que arriesgamos todo por la democracia el 28 de julio. Los que elegimos a Edmundo González Urrutia como legítimo Presidente de Venezuela, quien debe asumir de inmediato su mandato constitucional y ser reconocido como Comandante en Jefe de la Fuerza Armada Nacional por todos los oficiales y soldados que la integran.

Hoy estamos preparados para hacer valer nuestro mandato y tomar el poder. Permanezcamos vigilantes, activos y organizados hasta que se concrete la Transición Democrática. Una transición que nos necesita a TODOS.

A los venezolanos que están dentro de nuestro país, estén listos para poner en marcha lo que muy pronto les vamos a comunicar a través de nuestros canales oficiales.

A los venezolanos que están en el exterior, los necesitamos movilizados, activando a los gobiernos y ciudadanos del mundo y comprometiéndolos desde ya a la gran operación de construcción de la nueva Venezuela.

En estas horas decisivas, reciban toda mi fuerza, mi confianza y mi cariño. Seguimos todos alertas y en contacto.

VENEZUELA SERÁ LIBRE!
Vamos de la mano de Dios, hasta el final.



María Corina Machado
03 de enero del 2026

（写真）マリア・コリナ・マチャド氏 X（@MariaCorinaYA）

POINT

欧州諸国 トランプ政
権のベネズエラへの攻
撃について、合法性に
懸念を示しつつも強い
批判はなし。

武力行使とマドゥロ大
統領の拘束を既成事実
として認めるスタン
ス。

なお、「[ウィークリーレポート No.439](#)」の質疑応答の部分で触れたが、トランプ大統領は MCM 氏が政権交代後の指導者になることに否定的な見解を示している（彼女が指導者になるのは非常に難しい。穏やかな人物ですが、国内での支持はありません）。

MCM 氏自身はゴンサレス候補を大統領に就任させるよう求めており、必ずしもトランプ大統領の発言と衝突しているわけではないが、違和感のある発言と言えるだろう。

ちなみに、MCM 氏はトランプ大統領の発言に対して特段のリアクションをしていない。

（3）外国の動き ～米軍の攻撃に対する各国の反応～

トランプ政権によるベネズエラへの事前通告のない武力行使および大統領の拘束と国外移送を受けて、国際社会は様々な反応を示している。

欧州は、武力行使の合法性について疑問を投げかけつつも、**実質的に今回の武力行使を既成事実として受け入れるスタンス**と言えそうだ。

英国のスターマー首相は、SNS にて米軍が拘束したベネズエラのマドゥロ大統領は「正統性がない大統領」と指摘。「民意を反映した平和的な政権移行を望む」との見解を表明した。一方、軍事作戦については「一切関与していない」と説明。英国の関与を否定した。

フランスのマクロン大統領は、トランプ政権の対応を明確に支持。自身の SNS にて「ベネズエラ国民は、マドゥロ大統領の独裁から解放され、それを喜ぶほかない」と評価。民意に準じた平和的な政権交代を求めた。

一方、ドイツのメルツ首相は「アメリカの介入について法的評価は難しい」と指摘。「ベネズエラで政治的不安定が生じてはならない。選挙によって正当化された政府への秩序ある移行がなされるべき」との見解を示した。

また、スペイン外務省は声明で「スペインは緊張緩和と沈静化を求め、常に国際法と国連憲章の原則に従って行動することを求める」「平和的かつ交渉による解決を実現するために仲介の用意がある」との見解を示した。

POINT

米州諸国 ブラジル、
コロンビア、メキシコ
など基本的に武力行使
に否定的な見解を示す
国が多い。

中国・ロシアは米国の
軍事行動を強く非難。

日本政府は現時点で明
確なスタンスを表明し
ていない。

他、米州地域では今回の軍事行動について否定的な見解を表明する国が多い印象を受ける。

ブラジルのルラ大統領は SNS にて「ベネズエラ領内への爆撃と大統領の拘束は、決して容認できない一線を越えた」「ベネズエラの主権を侮辱する行為」「国際社会にとって非常に危険な先例になる」と警鐘を鳴らした。

コロンビアのペトロ大統領は SNS にて「国連憲章に定められた原則、特に国家主権と領土一体性の尊重、武力行使または武力による威嚇の禁止、そして国際紛争の平和的解決への無条件のコミットメントを再確認する」と投稿。

チリのボリッチ大統領は「米国の軍事行動に懸念と非難を表明し、深刻な危機の平和的解決を求める」と表明。

メキシコ外務省は「国連憲章第2条に明らかに違反するもの」との認識を表明。米国の攻撃について「強く非難し、拒否する」とのスタンスを示した。

他、キューバのロドリゲス外相は「米国や他国を侵略していない国に対する卑劣な行為だ」との見解を表明した。

一方、アルゼンチンのミレイ大統領は「自由は前進する。万歳」と投稿。トランプ政権の軍事行動を評価した。

他、マドゥロ政権と良好な関係を構築している中国は、今回の軍事作戦について外務省を通じて見解を表明。「米国が主権国家に対し強引に武力を使い、一国の大統領に手を出したことに深く驚愕し、強く非難する」「ベネズエラの主権を侵犯し、ラテンアメリカとカリブ海地域の平和と安全を脅かした」「国際法に違反しており、米国のベネズエラ攻撃に断固反対する」と発表した。

他、ロシア外務省は声明を発表。

「アメリカはベネズエラに対し武力による侵略行為を行った」

「極めて憂慮すべき事態であり、非難されるべきである」

との認識を示した。

なお、日本の外務省は、対策室を立ち上げたと説明しているが、現時点で本件について見解は表明していない。

（４）今週、来週の主なイベント

1月3日に起きた米国軍によるベネズエラへの攻撃により他のニュースがかき消されているが、12月最終週はベネズエラで様々なことが起きていた。速報でも紹介した通り、トランプ大統領がベネズエラの麻薬関連施設を攻撃したと発表。具体的な場所は公式には発表されていないが、コロンビア国境周辺の地域と報じられている。

他、12月31日に OFAC はベネズエラ原油を輸送している船会社に制裁を科し、同時に同社が保有するタンカーにも制裁を科した。トランプ政権は与党体制が続く限り、ベネズエラ原油を運ぶ船に制裁を科し、ベネズエラの原油取引を完全に停止させると思われる。

表： 12月28日～1月3日に起きた主なイベント

日付			内容
12月	28日	日	
	29日	月	トランプ政権がベネズエラの麻薬関連施設に攻撃したことが判明
	30日	火	
	31日	水	大晦日（国民の祝日）
			米軍 カリブ海で3隻の船舶を攻撃、少なくとも8人が死亡
			OFAC ベネズエラ原油を運ぶ船会社4社および船舶4隻に制裁
1月	1日	木	元旦（国民の祝日）
			マドゥロ政権 88人の拘束者の解放を発表
	2日	金	
	3日	土	米国軍 カラカスで軍事作戦を実行
			マドゥロ大統領、フローレス大統領夫人を拘束

表： 1月4日～1月11日に予定されている主なイベント

日付			内容
1月	4日	土	
	5日	日	
	6日	月	
	7日	火	
	8日	水	
	9日	木	
	10日	金	
	11日	土	

（５）債券の元利不払い状況

表：ベネズエラ債券の債務不履行額（12月30日時点）

（単位：100万ドル）

種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
国債	国債19	19年10月13日	7.75%	4/13 10/13	2,495	1,643.6	4,138.6
	国債24	24年10月13日	8.25%	4/13 10/13	2,495	1,749.6	4,244.6
	国債25	25年4月21日	7.65%	4/21 10/21	1,600	1,040.4	2,640.4
	国債26	26年10月21日	11.75%	4/21 10/21	3,000	2,996.3	5,996.3
	国債23	23年7月5日	9.00%	1/5 7/5	2,000	1,530.0	3,530.0
	国債28	28年5月7日	9.25%	5/7 11/7	2,000	1,572.5	3,572.5
	国債18	18年12月1日	7.00%	6/1 12/1	1,000	595.0	1,595.0
	国債20	20年12月9日	6.00%	6/9 12/9	1,500	720.0	2,220.0
	国債34	34年1月13日	9.38%	1/31 7/13	1,500	1,125.0	2,625.0
	国債31	31年8月5日	11.95%	2/5 8/5	4,200	4,015.2	8,215.2
	国債18	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	300	327.0	627.0
	国債18F	18年8月15日	13.63%	2/15 8/15	752	819.7	1,571.7
	国債22	22年8月23日	12.75%	2/23 8/23	3,000	3,060.0	6,060.0
	国債27	27年9月15日	9.25%	3/15 9/15	4,000	2,960.0	6,960.0
	国債38	38年3月31日	7.00%	3/31 9/31	1,250	700.0	1,950.0
グレースピリオド満了未払					31,092	24,854.2	55,946.2
種類	債券	満期	利率	各年利払日	元本	利息	合計
PDVSA債	PDVSA26	26年11月15日	6.00%	5/15 11/15	4,500	2,295	6,795.0
	PDVSA24	24年5月16日	6.00%	5/16 11/16	5,000	2,550	7,550.0
	PDVSA21	21年11月17日	9.00%	5/17 11/17	2,394	1,831	4,225.4
	PDVSA35	35年5月17日	9.75%	5/17 11/17	3,000	2,486	5,486.3
	PDVSA220	22年2月17日	12.75%	2/17 8/17	3,000	3,251	6,251.3
	PDVSA27	27年4月12日	5.38%	4/12 10/12	3,000	1,371	4,370.6
	PDVSA37	37年4月12日	9.75%	4/12 10/12	1,500	1,243	2,743.1
	PDVSA22	22年10月28日	6.00%	4/28 10/28	3,000	1,620	4,620.0
	PDVSA20	20年10月27日	8.50%	4/27 10/27	1,684	1,288	2,971.9
グレースピリオド満了未払					27,078	17,935.8	45,013.6
電力債18		18年4月10日	8.50%	4/10 10/10	650.0	442.0	1,092.0
グレースピリオド満了未払					650.0	442.0	1,092.0
合計					58,820	43,232	102,052

（出所）Av Security よりベネインベストメント作成

POINT

2. ベネズエラで起こりうるシナリオと可能性分析

「[1. \(1\) 与党陣営の動き](#)」で紹介した通り、マドゥロ大統領およびシリア・フローレス大統領夫人が米軍部隊に拘束され、国外に移送された。

本稿では、今後のベネズエラで起こり得る政治シナリオを整理・分析したい。なお、現時点では公式情報が限定的であり、本稿は**予測**というよりも、**どのような可能性があるかの確認**と理解されたい。

マドゥロ大統領不在の
ベネズエラで起こりう
るシナリオ。

(1) マドゥロ大統領なき与党政権の存続

現時点で短期的（1カ月内）に可能性が最も高いと思われるシナリオ。

- ・ 与党（PSUV）、軍、治安機関が結束し、現在の体制を維持
- ・ マドゥロ大統領を切り離し、トップを代えて与党政権が存続
- ・ 当面は非常事態的な統治体制が敷かれる可能性大

基本的な統治体制はマドゥロ政権時と変わらない。

米国は経済制裁を維持し、マドゥロ大統領なき新体制へ圧力をかけると同時に、水面下で協議を続けて政権交代の実現を模索。

短期的には、ロドリゲ
ス副大統領による新た
な与党体制での政権運
営。

マドゥロ大統領に代わる与党政権のトップは、デルシー・ロドリゲス副大統領が最有力。

ベネズエラ憲法第233条には、「大統領の絶対的不在が任期の最初の4年で生じた場合、副大統領が暫定的に大統領の職務を担当する」「絶対的不在が生じた日から30日以内に選挙を実施する」という文言がある。

つまり、ロドリゲス副大統領がマドゥロ大統領の職務を引き継ぐのが筋である。この点については、トランプ大統領自身も記者会見で発言しており、米国側の想定しているシナリオとも言える。

基本的には、現在の路
線を維持。

ただし「[1. \(1\) 与党陣営の動き](#)」でも触れた通り、現時点でロドリゲス副大統領は暫定大統領に就任する意向を明確にしていない。最高裁の指示に従うかどうか直近の重要ポイントと言える。

POINT

新与党体制が混乱すれば、軍部が暫定的に国を管理する可能性も。

野党による政権交代がすぐに実現する可能性は高くないが、中期的には十分起こり得る。

（2）軍部主導の暫定政権

ロドリゲス副大統領が、大統領就任を拒否あるいは新政権による統治が機能しなくなった場合に起こり得るシナリオ。社会が混乱すれば、緊急措置として軍部が権力を掌握する可能性がある。

- ・ 混乱下の治安維持を名目に軍部が政治の表舞台に出る
- ・ 形式的に文民トップを据えるが、実質的に軍が国を管理

「マドゥロ大統領不在による社会混乱を収束させるための一時的措置」との建前で軍部が国を掌握。本当に一時的なものになるかどうかは不明。形式的には文民の誰かがトップのポジションに就くが、実際は軍のトップが国をコントロールする。

軍部トップは、パドリーノ・ロペス国防相が最有力候補。

（3）野党による政権交代

短期的（1カ月以内）に起きる可能性はそこまで高くないシナリオ。中期的には十分に起こり得る。

- ・ 与党が瓦解することで移行政府を形成
- ・ 与党・軍との合意・妥協が大前提

マドゥロ大統領がいなくなったからと言ってすぐに野党がベネズエラを掌握するという予想は楽観的過ぎる。短期的な第1オプションはマドゥロ大統領不在の政権存続だろう。

ただし、マドゥロ大統領不在により政権統治が困難になり、水面下で米国と政権交代に向けた協議を行う可能性は十分に考えられる。その中で一定の合意形成が出来れば中期的には野党による政権移行は十分に起こり得る。中長期的な視点でベネズエラが最も成長するシナリオである。

形式上、野党政権の大統領は2024年7月の大統領選で当選したとされるエドモンド・ゴンサレス氏が就任するが、野党指導者MCM氏が副大統領に就任し、実質的に大統領として振る舞うのが基本路線だろう。

POINT

後継ポストを巡る権力
争いが始まり、統治機
能が崩壊し、治安が著
しく悪化も。

マドゥロ大統領不在の
与党にとって、「軍部の
忠誠」と「資金フローの
確保」は特に重要。

（4）統治機能の崩壊、社会混乱

可能性は低いが最悪のシナリオとして排除できない。

マドゥロ大統領の不在により与党内部で権力争いが活発になり、治安が著しく悪化。政府機能が崩壊し、社会的に著しい混乱が生じるシナリオ。

具体的に起こり得る筋書きとしては、ロドリゲス副大統領がトランプ政権の傀儡政権のように振る舞い、弱腰姿勢を見せたことに、一部の与党重鎮が反発。ゲリラ化し、抗争が激化し、治安が著しく悪化することが考えられる。

最も過激方向に舵を取りやすい与党重鎮はディオスダード・カベジョ内務司法相だろう。他にも過激派の与党重鎮は複数おり、新たな与党政権がトランプ政権に弱腰姿勢を見せれば、反旗を翻す可能性は否定できない。

3. マドゥロ大統領不在の与党の重要課題

マドゥロ大統領不在の新与党はトランプ政権による著しい圧力下で政権運営をする必要があり、そのハードルは極めて高い。新たな与党が政権を維持するために必要なのは以下の点。

① 軍の忠誠維持

将来的な訴追・制裁リスクへの安全保証、忠誠の見返りの提供

② 資金フローの確保

原油輸出・第三国取引の最低限の維持

③ 米国との関係の更なる悪化の回避

過度に敵対しない距離感を保つ

④ 内部抗争の抑制

後継ポストを巡る権力闘争の管理

政権維持に必要なのは、「軍部の忠誠」と「資金フローの確保」だろう。

政権を維持するためには、軍部の忠誠は不可欠。

そして、軍部の忠誠を維持するためには、彼らに不満を持たせないことが必要であり、資金フローの確保が重要になる。

POINT

米国政府は、今後も強硬にベネズエラの資金フローを制限すると思われる。

米国政府の強硬措置を抑制できなければ、新たな与党政権は窮地に立たされる可能性が高い。

また、社会不安が起これば政権内で混乱が生じる。

社会不安を起こさないためにも経済を安定させることは重要であり、その意味でも資金フローの確保は重要なテーマになる。

ただし、資金フローの確保にまつわるベネズエラの状況は極めて厳しい。

米国軍はベネズエラ近海に軍艦を派遣し、ベネズエラから出航するタンカーを厳しく管理している。

トランプ政権にとって国際法はほぼ無いようなものである。

米軍の特殊部隊を派遣し、マドゥロ大統領と大統領夫人を拘束するほど大胆な行動に出たことが何よりの証明だろう。今後も米国海軍はベネズエラを出港するタンカーを厳格に取り締まりものと思われる。

このままだと、遠くないうちにマドゥロ大統領不在の与党は極めて深刻な資金難に陥り、窮地に立たされることになるだろう。従って、ロドリゲス副大統領がトランプ政権に迎合するような方針を執る可能性はある。

トランプ大統領は、記者会見で「ロドリゲス副大統領とルビオ国務長官が協議を行った」と発言しており、この発言が事実であればロドリゲス副大統領と協力体制や政権交代に向けた協議が始められている可能性も否めない。また、トランプ大統領は記者会見で「移行が可能になるまで、我々が治安と秩序を担う」と述べており、ロドリゲス副大統領に傀儡政権になり、平和的な政権移行への協力を求めている可能性がある。

なお、トランプ大統領は記者会見で MCM 氏について、

「彼女が指導者になるのは非常に難しい。穏やかな人物ですが、国内での支持はありません」とコメントしている。この発言はロドリゲス副大統領が MCM 氏を政治リーダーとしない政権交代を要求し、米国側がこの要求を受け入れているのかもしれない。

いずれにしても、今後3カ月はベネズエラの今後を左右する極めて重要な時期になるだろう。

4. ベネズエラ債券・経済指標の増減（12月30日時点）

銘柄	利率	満期	BID	ASK	平均	先週比
2018-I	13.625	2018/8/15	30.50	33.80	32.15	0.63
2018-II	13.625	2018/8/15	32.15	33.60	32.88	1.39
2018	7	2018/12/1	26.35	27.75	27.05	2.66
2019	7.75	2019/10/13	26.05	27.45	26.75	1.71
2020	6	2020/12/9	26.15	27.55	26.85	2.09
2022	12.75	2022/8/23	31.50	32.95	32.23	1.58
2023	9	2023/7/5	27.65	29.05	28.35	1.89
2024	8.25	2024/10/13	27.60	29.05	28.33	2.35
2025	7.65	2025/4/21	27.75	29.15	28.45	2.52
2026	11.75	2026/10/21	32.05	33.35	32.70	2.03
2027	9.25	2027/9/15	32.25	33.40	32.83	1.47
2028	9.25	2028/5/7	31.35	32.60	31.98	2.40
2031	11.95	2031/8/5	31.80	33.05	32.43	2.21
2034	9.375	2034/1/13	32.30	33.45	32.88	1.54
2038	7	2038/3/31	29.00	30.20	29.60	1.98
電力債 2018	8.5	2018/4/10	16.05	17.10	16.58	△ 0.60

	利率 %	満期	BID	ASK	平均	先週比
2020	8.5	2020/10/27	100.15	102.05	101.10	0.10
2021	9	2021/11/17	24.80	26.25	25.53	0.79
P 2022	12.75	2022/2/17	27.90	29.35	28.63	1.15
D 2022(N)	6	2022/10/28	19.85	21.25	20.55	0.00
V 2024	6	2024/5/16	23.00	24.20	23.60	0.43
S 2026	6	2026/11/15	22.95	24.25	23.60	0.53
A 2027	5.375	2027/4/12	22.90	24.30	23.60	0.64
2035	9.75	2035/5/17	25.45	26.75	26.10	0.48
2037	5.5	2037/4/12	22.75	24.15	23.45	0.54

	百万ドル	先週比
外貨準備	13,303	△ 2.07

為替レート	ボリ／ドル	先週比
両替テーブル	304.68	1.23
並行レート(Binance)	615.07	-

（出所）Avsecurity、ベネズエラ中央銀行、
Exchange Monitor

解説

2025年末のベネズエラ債は先週比若干のプラスとなった。

トランプ政権によるマドゥロ大統領の拘束を受けて、今後ベネズエラの債券市場は大きな変化を迎える可能性がある。

マドゥロ大統領の拘束は、基本的に債券価格を引き上げる要因になる可能性が高い。

ただし、ベネズエラ債の債務再編時の減免率は70～80%になるのではないかととの観測があり、現時点で既にベネズエラ債は過大評価されているとの見方もある。

また、マドゥロ大統領不在の与党体制が継続する場合は、債務再編が実現しない可能性が高い。

現時点でベネズエラ債の購入には慎重な判断を求められるだろう。

以上